

# 道博協ニュース

## 第17号

発行 昭和61年6月15日  
発行所 北海道博物館協会  
(事務局)  
札幌市白石区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-(898)-0456

### 第二十五回北海道博物館大会 昭和六十一年度北海道博物館協会総会 開催日程

第一日(六月十八日)

#### 北見市民会館

受付(九時~九時三十分)

開会式(開会宣言、主催者挨拶、歓迎の辞、祝辞、閉会

宣言、オリエンテーション)

特別報告「日本における博物館の現況と課題」日本博物館協会専務理事・毛利正夫

講演「北見地方の開拓」屯田兵と北光社」北海道大学名誉教授・北海学園北見大学

名譽学長・高倉新一郎先生記念写真撮影および昼食

第一分科会「複合施設のあり方と問題点」司会者「苫小牧市博物館・佐藤一夫、発表者「北網園北見文化センター・西尾良則、夕張石炭博物館・青木隆夫、助言者「静修短期大学・北川芳男、網走教育局・工藤洋

第二分科会「地域博物館のネットワークづくり」司会者「釧路市博物館・澤四郎、

発表者「美幌町教育委員会・深谷法誠、市立旭川郷土博物館・其田良雄、助言者「網走市文化専門委員・米村哲英、北海道教育委員会・竹田輝雄

学芸職員部会総会

全体会議「広域生活圏と博物館のネットワークづくり」司会者「北海道立三岸好太郎美術館・工藤欣弥、報告者「苫小牧市博物館・佐藤一夫、釧路市博物館・澤四郎

懇親会(十九時三十分終了)

第二日(六月十九日)

北網園北見文化センター

受付(八時三十分~九時)

北海道博物館協会総会

○昭和六十年年度事業報告および決算・監査報告

○昭和六十一年度事業計画案および予算案

○第二十六回道博協大会開催地について

○役員交代、会員の異動について

○博物館大会および道博協総会の分離開催について

○その他

施設見学・北網園北見文化センター、北見市開基九十年記念特別展「坂本龍馬展」、北見ハッカ記念館、フラワーパラダイス(昼食)

解散(十四時)

日本博物館協会総会開かる  
——社団法人から財団法人に改組——

日博協の昭和六十一年度総会は、五月十三日午後、東京国立博物館大講堂を会場に開かれました。

今回の総会は例年の事業・収支決算報告とは別に、「財団法人日本博物館協会」の設立と「社団法人日本博物館協会」の解散という日博協の歴史に残る重要課題をかかえた画期的な総会でした。

これまでの日博協を解散せざるを得ない理由は、もっぱら財政的なゆきづまりにあり、社団法人の長所を残しながら、



民間の財政的協力を得易くするために財団法人に改める(毛利専務理事の趣意説明(写真))というのが組織改革のねらいですが、(一)現在の会員の意志が協会の運営に反映し難い、(二)少数の理事によって運営が左右されるおそれがある、(三)「財団法人日本博物館協会寄附行為(案)」の条文に不備の点がある、(四)今回の改組についての一般会員の討議が不十分である、などの意見も出されました。今後、これらの意見をできるだけ生かしながら進めるという条件付きで採択の結果、圧倒的多数で組織の改革が決定されました。(道博協事務局・関秀志)

日本における博物館の  
現状と課題

日本博物館協会

専務理事 毛利正夫

北海道博物館協会が設立二十五周年を迎えられると伺い、心からお目出たくお祝いを申しあげます。一口に二十五年と申しても、四分の一世紀であり、殆んど一世代に近い年月でありますことを考えてみても感慨もまた一入であります。

貴会は日頃の活動が、全国的見地からしても、大層活発であり、このことは、機会ある度に私が言及を致して来たところでありまして、誠に同慶にたえないところであります。

さて、我々の博物館界は、何と申しても国の社会教育行政の中に組込まれた組織・機関であります。ついては、行



毛利正夫氏

政改革と臨教審の今後の行方に深く係わる運命にあると位置付けても、大きな誤りであるとは思われません。国民一般、市民、地域住民における

地方の時代と文化の齊一的享受の認識浸透と欲求の高まりは、年と共にその度を加えておりますが、その反面、国及び地方自治体の財政も又、困難さを増加いたしております。博物館経営につきましても、

今後公私の設置者の違いに関係なく、その運営についての平衡感覚の重要さを要求される時代に突入したと考えるのであります。

ここに一例としまして、少し古典的ではありますが、シムムペーターの「発展の理論」

をご紹介しますと思います。彼は発展するためには、利用可能な各種の物や力の結合の仕方、を要えることによって、その成果を獲得できると言っています。さらにまた、興味のあることは、元の結合から漸次小さな歩みを通じて、連続的な適応によって、新しい結合に到達すること、新

しい結合が連続的に現出されることも可能で、この場合は発展に特有な現象が成立するとも言っています。

私は前者はその組織が極めて密接な結びつきで、即ち、運命の共同体の如き結びつきで、例えば、終身雇用制の企業における経営者とその従業員との如き場合がふさわしいと思いますが、反対に比較的緩やかな関係の結びつきの場合には、後者も中々捨て難い指摘を含んでいると思うのであります。前者は時間がかかっても安定的発展の保障度が大きい代りに、後者は大きな発展のチャンスをつかむことの

期待度が大きいと考えられます。この後者の考え方を基盤の一つとして、日本博物館協会を従来の社団法人から財団法人に発展的改組を、先般の総会に計りましたところ、幸いにご賛同を得たのであります。文部省も新財団の意図を了承せられ、目下最終的な申請手続の段階であります。

日博協は、今新しい船出の

劈頭に立っております。前途には種々の困難も横たわっておりましようが、皆様のご支援とご協力によりまして、新財団設立趣意書及び寄付行為に述べられました目的地に一日も早く無事着岸できますようお願いをいたします。

また、昭和六十二年の第三十五回全国博物館大会は釧路市で開催の予定であります。創立五十周年を迎えられまし

た釧路市立博物館は、北海道はもとより全国的にみても総合博物館として代表的な館であり、ここで全国大会を開催し、全国の博物館関係者が一堂に会して時宜に適した問題を討議するとともに、北海道の博物館の現状を視察され、その水準の高さ、北海道の博物館人の熱意が直接感じられます機会を得まして誠に喜びにたえません。開催館の釧路市立博物館はもとより、北海道博物館の皆様にも大変お世話になることと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

ます。

創立五十年を迎える  
釧路市立博物館と  
網走市立郷土博物館

釧路市立博物館は昭和十一年七月、釧路市立郷土博物館として発足、昭和二十六年に元市警察署の建物を移転改築して開館しました。以後、釧路地方の自然・人文両分野の調査研究の中核として多くの業績を残し、昭和五十八年十一月には、さらに一九億円余を投じた新館がオープンして注目を集めています。

一方、網走市立郷土博物館は昭和十一年十一月、故米村喜勇衛氏が収集した資料を基に、北見教育会の北見郷土館として発足、二十三年網走市に移管されて網走市立郷土博物館となり、三十六年に新館を増築して現在に至っています。この館はオホーツク文化を中心とする考古資料、北方民族資料が充実していることで知られています。

記念事業として特別展、シンポジウム、一日館長・学芸員等が計画されています。

北海道博物館協会

発足当時の思い出

道博協会長・中川 敏

北海道博物館協会が発足してから、二十五周年を迎えました。この記念すべき第二十五回大会が、六月十八日十九日の二日間、北見市で開催されることになりました。

当協会発足当時のことを、手元にあるアルバムなどを見て二十数年前をふりかえってみました。

昭和三十六年、当時の円山動物園は、前年十一月四日より翌年四月下旬まで閉園しておりました。四月上旬の頃と思いますが、開園準備で多忙をきわめていた時、園長室に来るようにアナウンスがあり急いで行きました。園長室にお客様がお二人だったと記憶しております。管理係長と、飼育係長である私が園長室に入りますと、お二人を紹介されました。

よく聞いていなさいとのこと。三人は、道教育委員会、博物館法、道内博物館施設など約三時間ばかりお話が続きました。武内館長は、眼を大きく開いてボソボソとお話をする。米村館長は甲高いお声で話され、阿阿大笑され、園長は鼻下のひげをなでながら聞いており、三人三様の印象が今でも残っております。

お話の内容は、早い時期に全道の博物館施設の連絡会を作ることに。動物園、水族館も加入することなどでした。すぐに、動・水園館長さん、五月中旬会議を開くことを通知しました。

昭和三十六年当時の動物園・水族館は、円山動物園、小樽水族館、小樽こども動物園、道立室蘭水族館、網走オホーツク水族館の五園館でした。博物館相当施設に、小樽こども動物園を除いて全園館が指定されておりました。



(第十四回全国大会記念写真)

昭和四十年、当協会発足五年目を迎え、第十四回全国博物館大会が函館市で開催されました。台風シーズンの九月のことで、天候を心配しておりましたが、運が悪いのか台風が接近して来ませんでした。大会前日より函館に来て準備をしていましたが、夜中に大荒れの台風が通過。大会一日目の午前中も風雨が降り、交通関係マヒのため、参加者がチラホラでした。午後から天候が回復し、参加者が集まり百名をこす盛況となり、武内会長をこす盛況となり、武内会長ら関係者一同ホッとしたことでした。三日間の大会を無事終了し、皆様方が喜んで帰路につかれたのです。

◆松前町郷土資料館の  
踊り山車・求福山修復

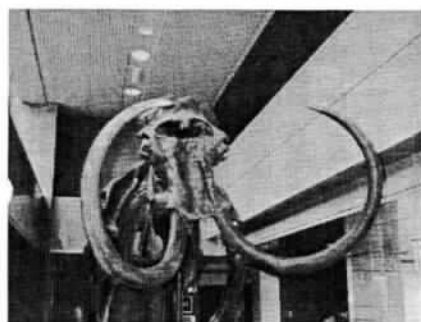
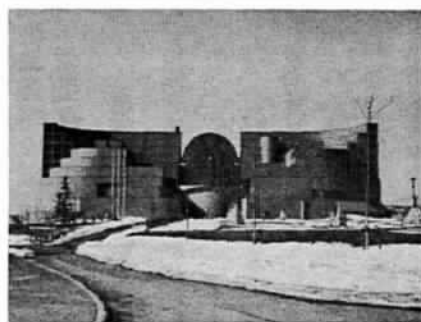
道指定文化財の踊り山車・求福山は、宝暦年間(一七五一〜一七六三年)の製作で、昭和五十二年に二十四件四十六点が有形民俗文化財に指定。修復作業は、今年度から約五カ年を見込み、修復された資料は逐次、松前町郷土資料館での展示が予定されている。(電話〇三五四―二二二六)

館 園 紹 介

釧路市立博物館

昭和十一年七月十四日、郷土博物館として開館以来、今年で五十周年をむかえることになりました。これも、皆様方のご指導・ご協力の賜物と深く感謝をしております。

現在の博物館は、釧路市出身で、昭和五十九年度日本建築学会賞を受賞（当館、湿原展望台等）した毛綱毅曠氏の設計によるもので、その名も『釧路市立博物館』と改め、昭和五十八年十一月三日にオープンいたしました。楕円形の円盤を階段状につみ重ねたデザインは、当館が位置する



春採台地（標高三十m）の等高線をモチーフにし、ドームを中央に配した左右対称の造形は、釧路湿原に生息するタンチョウが両翼を広げた様子を表わしております。そして、『北の大地にくりひろげられる自然と文化』をメインテーマに、正面ロビーには「氷期の使者」と題して氷河期の釧路を象徴する体長三・五m、体高二・九mのマンモスのレプリカを展示しております。

一階展示室は、『タンチョウをはぐくむ釧路湿原』をテーマに(一)釧路の大地、(二)釧路の生物、(三)釧路の海の三つのコーナーからなっており、釧路地方の地形のうつりかわり、湿原のおいたち、手造りのレプリカによる湿原の断面、密生している植物の本数や枯草など正確に復元し展示しております。また、この地方に生息する鳥獣、昆虫、海の魚と海獣、水槽による天然記念物「春採湖のヒブナ」阿寒湖の「マリモ」を展示しています。

二、三階を吹抜けにした二階展示室は、『海霧につつまれた自然と人々がおりなす歴史』をテーマに、釧路地方の遺跡を基にした土器のうつりかわりや集落、復元した東釧路貝塚の貝層断面、墓等を展示した「釧路の先史時代」。それに、幕末のクスリ場所、霧の街・釧路を象徴する霧笛、川崎船、焼玉エンジンに代表される漁業、石炭、木材等の産業から現在に至る「釧路の近世と近代」からなっております。

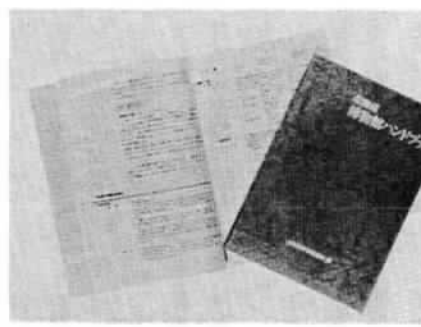
四階展示室は、『サコロベの人々』をテーマに、釧路アイヌの生活資料を中心に、暮しの様子を紹介しております。テーマの「サコロベ」は、道東のアイヌの人々に伝承され、た人間を主人公とする英雄物語で「ユーカラ」にあたります。

建物中央ドームは、全天空のジオラマがセットされ、釧路湿原の夏・冬を再現したタンチョウコーナーとなっております。また、各展示室には、シンセサイザーを用いたサウンドスケープ（音体環境音楽）が流れ、音による展示テーマの伝達を試みております。

教育普及活動としては、毎月、各種観察会や体験学習、学芸員講座（年八回）、講演等々を実施しております。一方、天然記念物ヒブナを守るため、館職員一丸となって生息調査を行っております。

新館がオープンして三年を経過しますが、地域に根ざした総合博物館作りを目指し、努力をして参りたいと思っております。今後一層のご指導をお願いします。

◆「北海道博物館ハンドブック」店頭販売ノ  
当道博協編・発行のハンドブックが、博物館学講座等のテキストとして、五月より札幌・紀伊国屋書店の店頭販売扱いとなりました。なお、事務局でも従来どおり会員八百円、非会員千円（送料二五〇円）で取扱っております。



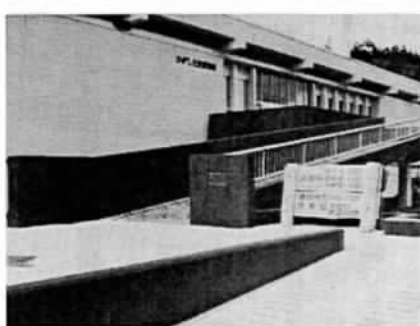
入館料・一般三百五十円、高校生二百円、小学生百円  
交通案内・東邦バス市立病院前下車、徒歩五分  
（釧路市立博物館 主事・袖中居 広志）

## 館 園 紹 介

### 上士幌町ひがし大雪博物館

当館は昭和四十五年五月、開道百年記念事業の一環として、道費補助金を得て、上士幌町糠平温泉に建設された道内でも数少ない町立の自然史博物館で、昭和五十二年に北博登第十五号により登録博物館となりました。

開館以来、地域の社会教育施設として、通年の常設展示の公開をはじめ、当館の目的である大雪山国立公園の自然を解明し、紹介するために生物相調査、各種自然観察会および学校教育との連携による自然教育事業を継続して開催



してきました。

しかしながら、展示に関しては開館当時そのまま、現在の進歩した展示技術とは比較にならないほど未熟なもので、早急な改善が懸案となっていました。昭和五十九年になって建物の内外装補修も含めて大幅な展示更新を実施することが決まり、その設計図が出来上がりました。翌六十年九月から半年に渡って工事が進められ、今春四月二十九日新装オープンを迎える運びとなりました。

これまでの第一・第三展示室はそれぞれ、大雪山の自然、昆虫の世界、大雪山の生いたちと人間の足跡として整備し



展示の一新をはかりました。

今回の展示の更新は前述の理由により、ディスプレイの技術的分野に力点をおき、改善することを主眼とすると共に、最近の情報をできるだけ多く提供するように心がけました。そのため幾分情報過多、難解のきらいもありますが、入館者の高度な知識欲求にも応えられるよう、敢てこのような展示方法をとりました。

また、親しみやすく楽しい雰囲気を出するために、鳥や虫の鳴き声装置を導入したり、ミニ視聴覚室を新設して大雪山の四季を紹介するビデオの再生、八咫フィルムの上映も行うようにしました。

その結果、入館者の館内滞留時間は従来の約二倍となり、その分だけ多くの知識を獲得してもらえようになったものと確信しております。

近年の自然に対する関心の高まりのなかで、私たちのかけがえない財産である自然を守り育て、後世に残すためにも、郷土の自然の価値を正しく伝える当博物館の役割は

大きいものと考え、今後も更に博物館活動の充実を図るつもりでおります。

末筆ながら、この度の展示整備事業に際してよせられた多数の皆様の惜しみない御協力に対し、衷心より感謝の意を表します。

### 〈ひがし大雪博物館概要〉

所在地・河東郡上士幌町糠平  
電話・二五四(四) 三三三  
開館時間・九時～十六時  
休館日・月曜日、十一月から三月までの祝日、年末年始  
入館料・大人二百円、高校生百円、小中学生五十円  
交通案内・国鉄糠平駅から徒歩十分  
(上士幌町ひがし大雪博物館 学芸員・山之内 統)

## 館 園 動 向

### ◆旧藤舞通行屋および 藤舞郷土資料館公開

明治四年(一八七一)、札幌から定山溪を経て有珠に通ずる有珠新道(本願寺道路)が完成。その要所となるミソマツ(藤舞)に、翌五年建設された通行屋(旧黒岩家住宅)

が、昭和五十九年度より全面解体の上、修復工事が進められておりました。この工事も完了し、四月十三日、その一部に郷土資料館を併設の上公開されました。

(札幌市南区藤舞十一番地 電話二二一五六一六三)

### ◆釧路水産資料室 オープン

釧路港のほぼ中央の岸壁に建てられた釧路市水産センター三階にあり、五月二十四日オープン。釧路の水産現況を知ってもらうための資料室で、四階の展望室からは、魚市場など釧路港全体を見渡すことができる。釧路市水産部所管

## 出版紹介

「博物館とともに」

北川芳男著、北川芳男氏退任記念誌刊行会編・発行、昭和六十一年六月、A五判一六四頁、二〇〇〇円

照会先・北海道開拓記念館 気付同書刊行会

北川氏が北海道開拓記念館在職中に発表された著述を中心に編集しています。

## 館 園 紹 介

## アイヌ民族博物館

アイヌ民族博物館は、白老地方のアイヌ文化伝承地・ポロトコタンの中に昭和五十九年四月開館したもので、アイヌ民族文化専門の博物館です。一部の研究者のためだけでなく、最近、とみに関心を高めてきた一般の人たちや観光に訪れる人たちのために、アイヌの歴史と文化について、正しい情報を提供する総合情報センターとして多くの方に利用していただき、それによって少しでも北方文化の発展に貢献していくことを目的として、財団法人白老民族文化



伝承保存財団が建てたものです。

博物館の外観は、コタンにふさわしくチセ（アイヌの家屋）をモチーフとした鉄筋コンクリート二階建ての建物で、一階が展示室、二階は研究・研修・収蔵などの諸室となっています。展示室に関しては、アイヌ民族文化に対する明るいイメージ作りをめざし、できるだけ外光をとり入れるよう設計されており、その中でアイヌの衣・食・住、信仰、儀礼、ひとの一生や他の北方民族などについて、系統だてたわかりやすい展示がされています。

展示資料は、これまで当館



が収集・保存してきた資料約二千点に加え、故児玉作左衛門北海道大学名誉教授が、生前収集された資料約二千三百点からなっています。

当博物館では、アイヌ文化に関する資料を収集・保存・展示するとともに、聞き取りなどの調査研究や各種の講座、講習会、企画展の開催、そして一般向けのアイヌ関係図書出版など、教育普及事業にも積極的にとりこんでいます。また、視聴覚機器としてビデオ、スライドボックス、マルチスライドビジョン等を完備し、展示資料だけでは語ることのできない部分についても、映像を通しより充実した情報提供を行っています。

更に、今年からは職員による展示解説に重点をおき、直接来館者と接することによって、アイヌの歴史と文化についてより多くの人に正しく理解していただくこと、一層充実した普及活動を努めていくつもりでおります。

当博物館が所在するポロトコタンは、道内でも有数の野

鳥生息地としても知られる緑豊かな自然休養林と、美しい湖とに囲まれております。この雄大な自然の中で、アイヌ文化を再現し、その歴史を肌で感じていただける最適な場所であるといえるでしょう。

なお、昭和六十一年度の主な事業としては、第三回企画展「東北地方とアイヌ文化」(七月十日～八月三十一日)、第三回アイヌ文化セミナー(八月九日～十一日)、第三回定例講演会(九月二十九日)等を予定しております。また、この度アイヌのウエベケレ(昔話)を日本語訳・絵本化した「ポロシルンカムイになった少年」を刊行いたしましたので、どうぞご利用願います。

《アイヌ民族博物館概要》  
所在地・白老郡白老町若草町  
二丁目三番四号

電話・三三三(三三)三三  
電話・三三三(三三)三三

開館時間・四月～十月は八時～十七時、十一月～三月は八時三十分～十四時三十分  
休館日・八月十三日盆休みとして十三時以降休館、年末年始(十二月三十日～一月

四日の六日間)  
入場料・大人五百円、高校生四百円、中学生三百円、小学生百五十円(二十名以上団体割引、人数により割引率が異なる)  
交通案内・国鉄白老駅下車徒歩七分、道南バス・中央バス「ポロトコタン入口」下車  
(アイヌ民族博物館  
学芸員補・青山まゆみ)

## 出版物紹介

「ポロシルンカムイになった少年」  
語り手・川上まつ子、絵・北市哲男、文・中村齋、A5変形判三二頁カラー刷り、アイヌ民族博物館、六一年四月刊

定価千円(送料二百五十円)



### 館園紹介

#### 上ノ国町郷土館

昭和四十四年、開道百年記念事業の一環として道費補助により建設されました。構造は、鉄筋ブロック造り二階建、延面積は百六十八㎡です。

展示方法は時代順となっており、大きく(一)先史、(二)中世、(三)近世、(四)近代に分かれ諸資料を展示しております。

縄文時代の遺跡が、町内には約九十箇所確認されております。(一)先史コーナーでは、これら町内の遺跡から出土した遺物の主なものを展示しています。土器は、早期の大潤式、前期の十兵衛沢式、中期の勝



山館式と大安存式、後期の入江式、晩期の上ノ国式などです。これら各時期に使用された石器類や、装身具等も展示しております。

十二世紀末葉より道南一帯に和人が渡道し始め、十五、十六世紀には館が作られました。町内でも、四つの館が確認されております。その内の一つ上ノ国勝山館跡は、松前藩始祖・武田信広の居城として、二代光広が松前に移り大館を築くまで道南和人の中心でした。その後、十六世紀末葉

まで城代が置かれ、大館の副城となり、日本海側における政治・経済の中心的な役割を果たしてまいりました。

#### 昭和五十二年、上ノ国勝山

館跡・花沢館跡とともに国指定史跡となり、五十四年より国・道の補助を受けながら史跡公園化の遺構確認調査及び環境整備工事を進めています。遺構確認調査では、建物跡のほか土葬墓、遺物廃棄場所、空壕跡、用水施設跡等の遺構のほか、陶磁器をはじめとする約三万点の遺物が発見され

ました。

これら各種施設の発見は、館内での多数の人達の存在を伺わせました。また、大量な遺物の出土は、物質的に豊かであつた事を伺わせました。さらに茶入、天目茶碗、茶臼等の茶器が出土しているのとお茶の風習があつたことがわかり、硯、仏具などもあるのが文化

の水準も、本州の戦国大名に劣らない高いものであつたと思われます。これらの館跡と出土遺物を中心に、(二)中世コーナーに展示しております。

展示遺物の主なものとして、陶磁器は青磁、白磁、染付、美濃、唐津、越前等。鉄製品は鉄・鍔の小札、鋌、釘、



鎌、鋸、等。銅製品は鏡、香炉、煙管、銭等。木製品は箸、漆器、桶、下駄、草履等です。

十七世紀後半の延宝年間以後、松山奉行所が江差に移り、上ノ国は日本海の一寒村となりますが、松前藩創業の地として藩主の一代一参等が行われました。そのため、松前藩関係の文書、書画、鍔、弓等が残されております。(三)近世コーナーには、これらの資料の一部が展示されております。

上ノ国の近代・明治以降は、鯨漁等の漁業の町としての賑わいを見ました。(四)近代コーナーでは、それらを示す資料を中心に展示されております。

#### 《上ノ国町郷土館概要》

所在地・松山郡上ノ国町字上ノ国二七四番地

電話・〇二五五―五―三三三

観覧時間・九時～十六時三十分(十一月～三月は九時三十分より開館)

休館日・毎週月曜日及び祝日

(五月三日、五日は除く)

年末年始(十二月三十一日～一月五日)

入館料・無料  
交通案内・函館バス「上ノ国病院前」下車徒歩二分  
(上ノ国町教育委員会)

学芸員・斎藤邦典

#### ◆道博協昭和六十一年度

#### 第一回役員会報告

日時・昭和六十一年四月十二日(土)十四時

会場・雪印ホール(札幌)

出席者・役員十六名(矢野理事欠席)、事務局側古田副館

長および局員四名

議題および協議・報告事項

(一)昭和六十一年度総会につ

いて(昭和六十年事業・

決算報告、監査報告、六

十一年度事業計画・予算

案、第26回大会の開催地

など)

(二)北海道の博物館につ

いて(専門委員会報告)

(三)理事(小樽市博物館長)

の交代・会員の異動につ

いて

(四)第二十五回北見大会の開

催要領および準備状況に

ついて

(五)会則施行細則の改正につ

いて

(内昭和六十二年全国博物館大会(釧路大会)について)

(七)日ノ極東・北海道博物館交流協会について(事務局)

新加入会員

〈団体会員〉博物館・網走監獄(網走市字呼人一番地の一)、電話(〇一五二)一四五二四一一、苫小牧市博物館(苫小牧市末広町三丁目九番七号)、電話(〇一四四)一三五一一五五〇、知内町郷土資料館(上磯郡知内町字重内三一番地四七)、電話(〇一三九二)一五一五〇六六、七飯町教育資料室(亀田郡七飯町字本町六四七一一)、電話(〇一三八)一六五七七九八

〈個人会員〉阿部要介、松村宗作、中村齋、関秀志、東谷清次、荻野節子、上杉敦子、舟山広治、柏倉義雄、林耕輔、工藤欣弥、右代啓視、雄、佐藤郁雄、橋爪実、小川享、三野紀雄、中田幹、菅訓章、丸山和子、遠藤龍、前川敏雄、藤井勇吉、松尾良雄

事務局日誌

- 4・1 事務局会議(昭和60年度事業・決算報告、61年度事業計画・予算等)。「昭和61年春季加入館園行事・事業案内」発送。道博協ニュース「第17号原稿依頼」
- 4・12 昭和60年度事業・会計監査実施。昭和61年第一回役員会開催(札幌・雪印パーラー、役員16名、事務局5名出席)
- 4・15 「昭和61年夏季加入館園行事・事業案内」調査依頼状発送
- 4・16 第44回国体道民運動推進協議会設立総会に会長出席。「道博協加入のおさそい」発送
- 4・23 会長、渡辺左武郎開拓記念館長にあいさつ。会長に事務処理経過報告。第25回大会につき北網園北見文化センター平井館長と打合せ(札幌)
- 4・24 事務局会議(第25回大会)
- 4・26 会長・北川副会長・工藤理事・事務局(関・中田)道教委社会教育課長訪問。「北海道における博物館の現状と課題」提供。第25回大会協力依頼
- 5・1 第25回大会後援・特別報告・講演・発表・助言。司会等協力依頼状発送。白老町教委教育長に第24回大会事業実績報告書提出。第25回大会現地打合せ(北網園北見文化センター)
- 5・7 第25回大会補助金交付申請書提出(北見市長)
- 5・8 会費(負担金)請求書発送
- 5・9 第25回大会補助金交付申請書提出(道教育長)
- 5・15 網走市立郷土博物館長来訪(シンポジウム・特別展共催依頼)
- 5・17 第2回役員会案内状発送。第25回大会あいさつ依頼状発送(北見市長)
- 5・20 第25回大会祝辞依頼状発送(日博協会長・道教育長・北見市議会議長)。「博物館等施設の現況調査」第25回大会開催案内状。「北海道博物館ガイド」修正依頼状発送
- 5・21 増毛町長本間泰次氏同教育長黒龍善雄氏等に面会。第26回大会増毛町開催協力について承諾を得る(事務局関・中田)
- 5・22 第25回大会事務局員派遣依頼(北海道開拓記念館長)・道教育委員会文化財係長大宗久氏・主査畏田敏夫氏来訪(学芸員等専門職員研修事業協力依頼)
- 5・27 「道博協ニュース」第17号編集着手
- 5・29 「第25回北海道博物館大会資料」印刷発注
- 5・30 第25回大会につき北網園北見文化センター平井館長・久保指導係長と協議(開拓記念館)

【編集後記】

▼本号は第25回大会日程、館園紹介を中心に、日博協専務理事毛利氏・中川会長の原稿もいただき編集しました。▼今後の館園紹介予定は十八号は動物園・水族館、十九号は美術館、二十号は科学館です。▼16号一頁の北見市の人口を十万七千人に訂正願います。